

学校教育目標 めざす生徒像	1 文武両道を推進する。
	2 「知・情・意・力」を身に付けた生徒を育成する。

達成度	A 達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割～7割)
	C やや不十分(4割～5割)
	D 不十分(3割以下)

重点目標	1 「自主・自律の精神を持ち自走できる生徒」の育成
	2 「豊かな心を持つ生徒」の育成
	3 「チャレンジ精神に溢れる生徒」の育成
	4 「あらゆる場面で力を出し切る根拠ある自信を持った生徒」の育成

番号	評価項目	自 己 評 価		達成度	成果と課題、次年度への改善策	学校関係者評価	
		具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況			評価	意見・要望・評価等
1	「自主・自律の精神を持ち自走できる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の不断の研究を推進する。 大学入試研究と層別指導を推進する。 志望達成に必要な家庭学習時間の確保と実践指導を推進する。 大学入試にも対応できる体系的な課題研究活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークやグループ学習を積極的に授業に取り入れ、アウトプットの機会を増やし、思考力と表現力を育成した。 習熟度別授業により、それぞれの学力層にあった指導を行うことができた。 「生活と学習の記録」を活用したPDCAサイクルの構築、時間の管理が習慣化されている生徒は、それぞれの段階で成績が向上した。 課題研究では、ポスター・ステージ発表とも、発表の仕方や資料の作り方等で成長が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 互いの授業見学が難しい等、「授業見学週間」の実施方法で再検討が必要。 成果が確認できた層別指導を今後も継続する。 時間管理が習慣化されていない生徒に対し個別指導を加える。 課題研究指導についての教員研修を充実させ、調べ学習の域を超える研究の質的な向上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性と先生方の職場環境の改善はある意味セットのようなもの。さらなる進歩が求められる。 自分を知り、他人を知り、将来へと羽ばたくため、「今何をすべきか」を常に考えさせ、仲間と共に互いに考え、判断し、協力してより良いものを生み出す力を指導していただきたい。
2	「豊かな心を持つ生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 端正な装いと元気で明るい挨拶を推進する。 学校の教育活動全体を通じた道徳教育を展開し、日々の清掃活動を充実させる。 酒東生だからできる酒東生らしい社会貢献活動を推進する。 学年行事やLHR等を活用した仲間作りを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶・身なり等、基本的な生活マナーはおおよそ問題ないが、一部に基本的な生活習慣が確立されない生徒もいた。 配慮の必要な生徒については、迅速できめ細かな面談を心掛け、チームとして適切な対応ができるよう努めた。 保健委員による清掃点検や清掃用具点検、大掃除における特別分担を実施した。教室美化については良好である。 課題研究や授業でのグループ活動を行う中で、生徒同士の協働意識が醸成されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個別の状況に留意しつつ、保護者とも連携を取りながら、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を続ける。 学年団と保健部等、関係部署での情報共有と迅速な対応を継続する。 清掃、整理整頓、私物の管理について、さらに徹底できるよう指導を続ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭他での表現活動は大したものだった。 所用で学校へ伺う際、生徒達の方から挨拶をしてくれる。 社会が変化しようとも、自分で課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断行動し問題を解決する資質・能力、家庭・地域との関わりを深めた人間性、逞しく生きるための健康・体力といった「生きる力」を根気よく教えていただきたい。
3	「チャレンジ精神に溢れる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 社会的課題と人生を結びつけて考え高い志につなげる指導を推進する。 上位層グループの意識的育成及び意欲の喚起と堅持を図る。 個々の生徒の強みを伸ばす指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部学科研究会、夏のオープンキャンパス、東京キャリア研修、「これみち講演会」等を通して、将来について考えさせ、学習意欲を喚起することができた。「地域おこし」や「起業」等新たな視点も加わり、多様な価値観を生徒に提供できた。 きめ細かな担任面談に加え、進路に応じ進路主担当、学年主任、進路部長等による面談を実施し、生徒の意欲喚起につながった。 アントレプレナーシップ育成講座・先端生命科学研究所特別研究生は、受講生徒だけでなく、本校にとっても外部機関との新たな関係作りの面で価値があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究科、普通科、上位層、下位層それぞれに効果的な手立てを分掌・学年の連携の中で計画する。 課題研究の発表等を通じて、他校生との交流を積極的に推進する。 外部機関が実施する各種探究型ワークショップについて、担当分掌を整理しつつ、生徒への広報につとめ周知を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表会では、きれいにまとまっているものが多かったが、もっと型破りな発想も期待したい。 小さな事でも良いから「揺ぎ無い自信を持たせること」、失敗を恐れずにできる限り沢山経験を踏むこと、その気持ちを持ってすれば、自ずと「自主・自律の精神」も宿ってくると思う。
4	「あらゆる場面で力を出し切る根拠ある自信を持った生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 99%以上の出席率と93%以上の部活動加入率を確保する。 主体的な生徒会活動・生徒会行事の運営と充実を目指す。 凡事徹底を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は、欠席も少なく健康的に学校生活を送っている。(出席率 1年98.5% 2年97.8% 3年98.9%) 部活動加入率93.2%(4月現在) 生徒会活動は執行部を中心に自主的に行われている。 生徒が企画・運営の主体となる体育祭を、成功裏に実施することができた。 各種学校行事では、生徒それぞれがその特性を生かして役割を果たし、クラス一丸となって準備・運営に協働する姿が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理能力を高めるため、機会を捉えて指導・声かけを重ねる。 スクールカウンセラーを加えたNAS小委員会を企画し、担任を支援する。 生徒会校内リーダー研修会で執行部・委員会・部・クラスの連携について検討させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の頑張り(活躍)が引退後の受験勉強の踏ん張りにつながる。 自らの可能性に「蓋」をせず、あらゆる可能性に挑戦してほしい。 「何を知っているか、何が出来るか」(思考力)「知っていること、出来ることをどう使うか」(判断力)「どのように社会とかかわり、よりよい人生を送るか」(表現力)を基本に、知識・技能の活用を図る学習活動、言語活動を取り入れて教えていただきたい。
総括		<ul style="list-style-type: none"> 学習・進路指導それぞれの面で、探究科・普通科の特性を生かした指導方法を研究し、実践する。 生徒の多様化に対応し、層別指導など、きめ細かな指導体制の構築を一層推進する。 課題研究を軸とする探究型学習の推進等を通して、『解のない課題』に取り組む人材育成と大学入試制度改革への対応を進める必要がある。 新学習指導要領に応じた教育課程の見直し取り掛かる。 			自己評価及び学校関係者評価の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの質問項目を、生徒・保護者・教職員それぞれについて、学校課題の変化を捉えながら、評価の観点を揃えて適宜見直す必要がある。 	